

よく考え、すすんで学習する子どもの育成
～確かな学力の向上をめざす指導の工夫～

I 主題設定の理由

本校では昨年度まで数年間、「評価方法の工夫」の主題を設定し、研究を続けてきた。その結果、授業実践を通して一枚ポートフォリオをはじめ、学習感想、わくわくボード、がんばりカードなど数々の評価方法を検証し、それぞれの成果や課題点を探ることができた。また、児童にとっては自分の学習の変容を実感することができる自己評価ができた、友だち同士の考えを知る相互評価ができた、学びに対する意欲向上につながる成果を上げられた。しかし、研究の成果がたくさんある一方で、課題点も出された。その1つは、評価に関わる児童の「書く力（言語力）」の不足であったり、思ったことを発表するといった「表現力」の不足である。また、評価という方法によって基礎・基本の習得の向上はみられたものの、思考力や判断力の大きな向上まではみられないことが課題となった。

本年度の研究は児童の実態、昨年度までの研究の課題点、そして新しくなる学習指導要領の改善点などを踏まえ、今までの研究を活かしつつ、学ぶ意欲に焦点を当てた研究から、確かな学力の他の要素にも目を向けた研究へと発展させていきたいと考える。

ところで、平成23年度には新学習指導要領による教育課程が完全実施されるが、その改訂の基本的な考え方は①知・徳・体の調和の取れた「生きる力」の育成、②基礎・基本的な知識技能の習得と思考力・判断力・表現力のバランスを重視、③豊かな心と健やかな体の育成、という3点が取り上げられている。特に②の「確かな学力」といわれる基礎・基本の知識技能の習得やそれを活用する力は、本校の児童にも不足している部分であり、これから校内で研究を進めていくうえでは有益なものと言える。

具体的には、各教科において、反復学習や体験学習を取り入れた基礎・基本的な知識技能の習得を重視するとともに、観察・実験・調査やレポートの作成など知識技能の活用を図っていきたい。また、学習のまとめや発表・討論など言語を使った活動を積極的に仕組むことにより、言語力や表現力の向上も図れればと思う。言語で表現することは、友だちの考えを知ったり、自分の新たな発見があったりと、自分の持っていた知識を確かなものしてくれる。そして、さらに学ぶことの意欲につなげてくれるだろう。

以上のように、指導方法を工夫することにより、児童の「確かな学力」の向上ができれば、今以上に児童が主体的に学習に取り組むであろうと考え主題と副題を設定した。

II 研究仮説

学習指導において、達成感を持てるような評価方法の工夫をすることにより、児童の学習への意欲は高まるであろう。

III 研究の具体的な内容と方法について

- ①講師を招いての学習会
- ②ブロック別の研究会
- ③授業実践（ブロックごと）
- ④一人一実践の取り組み
- ⑤特別支援学級の学習会

IV 研究実践

1 学習会

(1) 「思考力・判断力・表現力について」 講師：指導主事 嶋崎 修 先生

2 検証授業

(1) 第4学年 社会科授業実践「県のまちづくり」 授業者 飯島 裕明

(2) 第1学年2組算数科授業実践「どちらが多い(かさ)」 授業者 原藤 生府

3 実践

○第1学年1組国語科授業実践「ことばっておもしろいな」 授業者 武井 美香

○第2学年1組音楽科授業実践「リズムにのってあそぼう」 授業者 鈴木奈津美

○第2学年2組道徳科授業実践「友だちについて考えよう」 授業者 小幡 香織

○第3学年 総合科授業実践「食べ物はかせになろう」 授業者 志村貴美子

○第4学年 理科授業実践「水のすがたとゆくえ」 授業者 清水 正俊

○第5学年1組国語科授業実践「目的に向かって話し合おう」 授業者 畠山 忠

○第5学年2組算数科授業実践「平行四辺形の面積」 授業者 雨宮 和美

○第6学年 社会科授業実践「天下統一をめざす戦国大名」 授業者 渡邊 尚英

○ひまわり学級 自立活動「なかよくあそぼう」 授業者 三枝 光江

V 成果と課題

1 成果

- ・国語、算数のみの設定でなく、高学年では「社会科」が実践され、拡がりができ、大変参考になった。
- ・評価方法にも色々たくさんあることを改めて感じ、その時々に必要なものを取り入れ、意欲を高められると思った。
- ・教材教具の工夫や話し合い、教え合いの場を意図的に設定することで子ども達の伝えようとする意欲が高まり、進んで学習する姿が見られた。
- ・低学年ブロックでは、研究の成果を上げる手立ての1つとして学習規律の確立、特に常掲できる資料づくりをして取り組めた。いつも子ども達に振り返るより所となって効果的だった。
- ・「教えて、考えさせる授業」が参考になった
- ・校内研は授業づくりを核とすることが重要だと思う。そして、一番勉強になるのは授業者である。その意味からブロックの授業づくり、個人実践の提案と、全員が授業づくりに関わられた有意義な校内研となった。
- ・「確かな学力」の向上をめざした授業実践ができ、指導方法の工夫がなされ成果があった。
- ・1つの教科にとらわれず多教科にわたる実践報告を聞くことができ、勉強になった。

2 課題

- ・「主体的に考え学ぶ」という点が、目に見えにくい部分であり、授業を通して日々担任が接する中で“感じる”ものであるため、「成果」という点では主観的になってしまう所もあると思う。
- ・時間の確保と児童の学力の判定とその改善点の把握
- ・「聞くこと」に課題があると思う。相手の話を聞けない、自分と関わらせて聞けないといった児童の実態がある。よく考え、すすんで学習するために聞く力を伸ばすための手立てを考えることも必要かと思う。
- ・思考力、判断力、表現力などを育むには、言語活動の充実を図ることが大切だと言われているが、言語能力には個人差があるため、日々の言語活動の工夫が必要だと思う。(研究主任 飯島裕明)